



菅波 茂

うな難民のあり方は初めての経験だ。一般家庭の「善意の耐久力」がどこまで続くのか心配だ。
99. 6. 3
今回のコソボ難民救援活動は日本政府と日本のNGOとの協力関係に画期的な新機軸をもたらした。すなわち、日本政府による日本のNGOへの全面的支援体制である。日本政府は北大西洋条約機構(NATO)に対して戦費負担を拒否し、人道援助を実施すること
を明言した。しかし、政府ベースの自衛隊や国際緊急援助隊を派遣できなかった。その代わり、緊急人道援助の出来るNGOとの協力体制を一気に推進したことだ。

コソボ難民は、権謀術数の渦巻く冷酷な国際政治の産物と考えられている。歴史がその複雑さを証明している。AMDAはアルバニアに今年4月4日から医療チームを派遣して、首都ティラナと昔からの国際的な港であるデュラスで活動を行っている。

なぜアルバニアか。理由は簡単だ。コソボ難民がアルバニア民族だからである。事実、アルバニアに來た難民の約7割が一般家庭に同居している。数十万人の難民といえは、テントが立ち並び国連関係機関や民間団体がせわしく動きまわり、難民の悲惨な状況が野に満ちる。これが典型的な難民の構図とすれば、砂に水が染み込むよ

コソボ難民救援

係に画期的な新機軸をもたらした。すなわち、日本政府による日本のNGOへの全面的支援体制である。日本政府は北大西洋条約機構(NATO)に対して戦費負担を拒否し、人道援助を実施すること
を明言した。しかし、政府ベースの自衛隊や国際緊急援助隊を派遣できなかった。その代わり、緊急人道援助の出来るNGOとの協力体制を一気に推進したことだ。
しかし、この難民問題には長期支援体制が必要だ。日本にアルバニア大使館はないのでAMDAは市民グループ「日本・アルバニア協会」の支援を受けてAMDAのアルバニア支部を発足させる準備に入った。ユーゴスラビアでは昨年、セルビアにAMDA支部を発足させた。バルカン半島の難民問題にいつでもどこでも人道援助が実施できる体制は今後のAMDAおよび日本にとっても不可欠だ。
人間だれでも他人の役に立ちたい気持ちがある。援助を受ける側にもプライドがある。だれでも社会から必要とされたい気持ちがある。現地のごとは現地の人たちが一番よく知っている。これがAMDA支部発足の理由だ。そして支部間で助け合う。「困ったときはお互いさま」。この相互扶助思想はAMDAの行動原理である。
(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)